

データの分析

～最適解を見つけ、効果的なプレゼンテーションを行う～

2年 総合的な学習の時間
理数工学探究・数学分野
資料の活用

ねらい

- 解のない命題に対して、協同学習を通して最適解を見つける。
- 地元鳥取の事を知ることで、郷土愛を育む。
- 見やすく、分かり易い「伝わるプレゼンテーション」をする。

学 習 展 開

- ① 教科担当教員が、ウォーミングアップとしていくつかの解のない問題を提示し、各グループで話し合いながら課題に取り組む。その後、どのように解に辿り着いたかを発表し合う。
- ② 鳥取県の様々なデータを分析し、鳥取県の抱える課題を挙げていく。
- ③ それらの課題を解決し、より魅力ある鳥取県にするための具体的な方策を、様々なメディア・ツールを活用しながら多角的に考察する。
- ④ 各グループが分析した内容をパワーポイントにまとめ上げ、「伝わるプレゼンテーション」をする。



各グループが進捗状況を発表し合い、「伝える力・聞く力」を育成すると共に、次の学びに繋げていく。

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、教科担当教員と相談して、授業の手法や教材研究についての情報提供、生徒が使用する資料の準備を行う。
- 学校司書は、各グループの進捗状況に応じて、アドバイスし、新たな資料の準備をする。
- 書籍・雑誌・新聞・パンフレットやタブレット端末等、様々なメディア・ツールを活用させる。

★指導のポイント

- ◆ 単なる調べ学習に終わることがないように、能動的に考察させるための仕掛けを十分に行う。(ウォーミングアップ)
- ◆ 「対話すること」に重点を置き、授業時間の後半には、毎回、ディスカッションを行う。
- ◆ 情報を精査し、「伝わるプレゼンテーション」を意識させる。

資料

「これ、いったいどうやったら売れるんですか？」(永井孝尚/SBクリエイティブ)
 「未来の年表」(河合雅司/講談社)「スパッと決まる！プレゼン」(山田進一/翔泳社)
 「田舎暮らしの本」(宝島社) 日本海・朝日・毎日・読売・日本経済新聞 鳥取県 HP